平成１５年度コンクリートカヌー大会報告書

１　期　日　　平成１５年８月２３日（土）
２　場　所　　荒川調整池「彩湖」
３　参　加　　土木系の高校、大学、高専２４チーム
４　本校の様子　全日制、定時制の２チーム出場。全日制は、予選通過ならず、定時制は決勝トーナメントへ進出したが、入賞ならず。しかし、全日制のプレゼンテーション審査は満点を得る。

以下に、活動の様子を写真で示します。（データはFD）

「コンクリートカヌーの製作を通して」
生徒感想文

栃木県立宇都宮工業高等学校土木科３年

山本　直毅

最初は、既製のカヌーで大会に参加するものと思っていいました。そしたら、自分たちでオリジナルのカヌーを造るということを知り、とても興味がわいてきました。実習や課題研究の時間にみんなでアイディアを出し合いカヌーの形状やデザインを考えました。テーブルに実際に実寸図を描き検討し、何回も設計を変更しました。その結果、２人が乗るのに最適なカヌーの設計ができました。

次に、材料にすみ付けをし材料を加工しました。何回もミスをしてしまい、予定どおり進みませんでした。何とか型枠を作製し、その上に金網を巻き、鉄筋を配筋して、コンクリートを塗りつけて完成しました。できたときは、とても感動しました。夏休みを返上して、色を塗ったり、試走したりしました。大会では、上位入賞はなりませんでしたが、いい思い出がまた一つできました。

荒川勇太郎

私は、課題研究でカヌーの製作を選びました。みんなでカヌーの大きさ、形、また、浮力のことを相談している時に、とても夢があり、充実した話し合いができました。次に、設計どおりに、木材を加工し、カヌーを作製しました。今回のコンセプトは、廃材利用ということでした。夏休みを利用し、作製にあたりました。カヌーの名前は、「宇工MAX」としました。その名の由来は、流線型をイメージしたら新幹線に形状が似ているからです。また、どのカヌーよりも速いという願いを込めて名付けました。できあがったカヌーをみたときは、自分たちで作りきったという達成感とうれしさでいっぱいになりました。このカヌー作りに挑戦して本当によかったと思いました。夏休みに毎日学校にきて大変だったけれども、３年最後の夏休みにとてもいい思い出ができたと思います。大会では、うまく漕げずに蛇行してしまい、よい結果は得られませんでした。来年は、漕ぎ方をもっと練習した方がよいと思います。

小島　晋

私がコンクリートカヌー製作を選んだ理由は、一日体験入学の時に先輩方の活動する姿が印象的でずっとやりたいと思っていたからです。型枠は、授業時間に作り終えましたが、そのほかの作業は、放課後や夏休みの時間を費やしました。研究グループ以外の仲間も手伝ってくれてとてもありがたかったです。このとき、チームワークの必要性を痛感しました。

大会では、プレゼンテーションでは満点をもらいましたが、レースではよい結果が出せませんでしたが、先生方や仲間のおかげで楽しい思い出ができまいした。もし、次回出場する機会があったら、今度こそは、一番速いカヌーを製作してみたいです。

深谷　尚生

最初は、簡単に作れると思っていましたが、実際には、何度も失敗を繰り返し完成するまでにとても時間がかかってしましまた。まさに、失敗は成功の元といえます。カヌーが完成するまでにいろいろな工程があることを知りました。また、コンクリートが浮くといくことは信じがたいことでしたが、浮力の計算をしたりすることによって、その理由がよく理解できました。

大会はとても暑くて大変でした。成績は残念な結果となってしまいましたが、皆で最後までやり遂げた充実感は今でも忘れません。この体験は、ひとつのことにチャレンジすることの大切さを教えてくれました。

山中　正博

「コンクリートが水に浮くのか？」この疑問が、私がカヌーづくりに挑戦するきっかけとなりました。全長４ｍ、幅０．５ｍの物体が本当に浮くのか、実際に学校のプールに浮かべてみるまでは、半信半疑でした。全員で設計図を描き、製作を開始しました。まず、図面通りに材料を加工しようと思いましたが、なかなか寸法通りにならず、かなりの時間を要してしまいました。カヌーの胴体は木製の型枠でつくり、その前後は 発砲スチロールで加工しました。その上に、鉄筋や金網を巻き付けコンクリートを塗りつけました。このとき、本当に浮くのかなと不安になりました。完成し、プールに浮かべる時がやってきました。見事に浮いたときは、感動しました。２人乗りなのに、３人が乗っても沈みませんでした。

大会当日、天候に恵まれすぎとても暑い中で行われました。会場の調整池は、とても広く感じました。ついに私たちの出番がやってきました。スタートはよかったのですが、思うように進まず、ふらふらと左右に曲がってしまいました。結果は、上位進出が果たせませんでした。私は、この大会を通じてコンクリートが水に浮くことと、カヌーの操舵の難しさを知りました。また、友達とさらに深い交流ができました。この経験を今後に生かしていきたいです。